

南日本新聞

2021(令和3)年

12月23日

木曜日

旧暦11月20日

赤口

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

きょうの歴史
1871(明治4)年

新たな遺伝子治療に力を入れる鹿児島大南九州
先端医療開発センター長

小賊こさい

健一郎さんけんいちろうさん

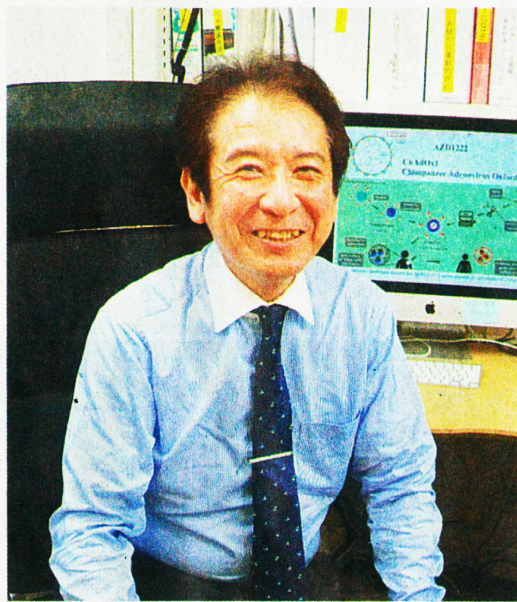
治療の選択肢がない難治性がんなどに向け、風邪の原因となる「アデノウイルス」の遺伝子を組み換え、がん細胞のみを破壊する治療薬開発に取り組む。鹿児島大学病院で進めている悪性骨軟部腫瘍などに対し安全性を確認する治験も良好な成績を収めており「実用化して、がんで死なない社会を目指したい」と意気込む。

熊本県で開業医の長男として生まれた。後を継いでほしいという両親の期待に応えるため1982年に久留米大学医学部へ入学した。「学生時代は臨床医にしか興味がなかった」と話す

かお

が、研究者を志す転機はすぐに訪れた。

医学部卒業後、大学院へ進みながら研修医として勤務する中で治療法が確立されていない難治性疾患と闘う子どもを担当。



「既存の医療に無力感を感じた。科学者になり、自身で治療法をつくりあげたい」と決心した。

93年に米ペイラー医科大へ留学し黎明期だった遺伝子治療に取り組んだ。当時はウイルスへの遺伝子組み換え技術を開発している段階。「苦しんでいる患者に希望を与えられるのでは、と未来を感じた」。2006年から鹿大に赴任し研究を進める。

新型コロナウイルスで台頭したメッセンジャーRNA(mRNA)ワクチンも遺伝子治療の一部だ。「われわれの30年近くに行っている研究の成果が開こうとしている。多くの人に遺伝子治療のことをもっと身近に感じてもらえるよう、研究と合わせて正しい情報発信に努めたい」と話す59歳。

(中元聡史)